

PC建協第12回定時総会を開催

令和6年5月16日に東京都千代田区のホテルグランドアーク半蔵門で第12回定時総会を開催しました。

同日開催の理事会で、新たに堤忠彦会長（㈱富士ピー・エス代表取締役社長執行役員社長）、森拓也副会長（ピーエス・コンストラクション㈱代表取締役社長執行役員）、川田琢哉副会長（川田建設㈱代表取締役社長）、荒瀬美和副会長兼専務理事、及び山下和則監事（極東鋼弦コンクリート振興㈱代表取締役社長）が選任され新体制となりました。



▲ 総会後の懇親会で挨拶する堤忠彦新会長

第27回参议院選挙に見坂茂範
前近畿地方整備局長を推薦

PC建協は、第27回参议院議員通常選挙における建設業界の職域代表候補として、前近畿地方整備局長の見坂茂範氏を推薦することを決定しました。

令和6年6月13日の理事会後に開催した手交式で、堤忠彦会長が見坂氏へ推薦状を手交しました。



▲ 手交式の様子。見坂氏（左）と堤会長（右）

発注者との意見交換会が始まる

令和6年6月14日開催の国土交通省道路局との意見交換会を皮切りに、全国の発注者（各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局、各日本高速道路㈱、(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構）との意見交換会が始まり、8月までに、沖縄総合事務局、北海道開発局、九州地方整備局との意見交換会が終了しました。

《PC建協からの提案（国土交通省）》

1. 年度工事量の安定的な確保
 - ① 年度工事量の安定的・持続的な確保
2. 次世代に夢をつなげる新規プロジェクトの創生
 - ② 働き方改革の推進
3. 働き方改革の推進
 - ① 総労働時間の削減
 - ② 技能労働者の処遇改善
4. 生産性向上の推進
 - ① プレキャスト化の推進
 - ② ICT活用の推進
5. PC橋の長期保全の推進
 - ① PC橋補修工事における技術提案・交渉方式の更なる発注要請（ECI方式の推進）
 - ② 地方自治体支援要請（国土交通省の直轄診断・修繕代行業務の更なる推奨）
5. 機能性向上と構造デザイン性を有

功労表彰・学会賞 受賞

● 令和6年建設事業関係功労者等
国土交通大臣表彰 大野達也氏

するプレキャストPC建築の推進
①庁舎計画にプレキャストPC造を推進
②防災施設（津波避難ビル、人工地盤、避難タワー等）にプレキャストPC造を推進

建設事業関係功労者等国土交通大臣表彰
大野 達也氏

PC建協理事である、大野達也氏（オリエンタル白石㈱代表取締役社長）が、令和6年建設事業関係功労者等国土交通大臣表彰を受賞されました。大野氏はPC建協理事を現在に至るまで6年間務めていただいており、令和2年から2年間、PC建協会長を務めていただきました。

●令和5年度土木学会賞 田中賞
業績部門 手塚 正道氏
(株)サン環境計画品質管理部部長
(元)オリエンタル白石(株)常務執行
役員)

PC橋の耐久性向上と持続可能な
社会形成におけるPC建造物の役割
の明確化などに対して本賞が授与さ
れました。

手塚氏はPC建協環境負荷低減対
策部会長などを歴任、コンクリート
の耐久性評価や低炭素社会形成への
取り組みなどに貢献いただきました。



土木学会賞 田中賞
手塚 正道氏

第31回PC建築技術講習会を 開催

「第31回PC建築技術講習会」が、
令和6年7月12日に東京会場(港区・
建築会館)での対面形式とオンライ
ン形式の併用開催及びオンデマンド
配信で開催されました。参加者は、事

前登録制で約800人の登録があり
ました。

各講習の演題(建築物)と講師は次
のとおりです。

- (1)「琉球ホテル&リゾート名城ビーチ」
『大宴会場からチャペルまでバリ
エーション豊富なPC技術』
(株)国建 岡田佳那、砂川秀紀
- (2)「彦根総合スポーツ公園陸上競技
場(平和堂HATOスタジアム)」
『過去と未来の「架け橋」となる競
技場』
(株)佐藤総合計画 大野竜也、佐竹知希
- (3)「ニコン本社/イノベーションセ
ンター」
『光と風を取り込む執務空間に採
用したハーフPCaPC鋼コンク
リート合成スラブ』
(株)三菱地所設計 沼田祐子、中村俊介
- (4)「某研究施設」
『可変性確保大スパンPCaPC構
造とBCP対応免震構造の融合』
プラナス(株) 柴川義智、(有)NCU一
級建築士事務所 植畑寛志

第14回PC建協業務報告会を 開催

令和6年7月18日にホテルグラン
ドアーク半蔵門で「第14回PC建協業

務報告会」を開催しました。今回は約
120人の参加がありました。報告会
では各委員会からの発表及び各支部
の活動報告をパネル展示しました。
当日の発表は次のとおりです。

- (1)プレテンションPC床版橋の横締
めPC鋼材破断に対する研究
- (2)平成29年道路橋示方書に対応した
プレキャストPC床版の試設計
- (3)新設PC橋のグラウトホースおよ
び打継部における水分浸透モニタ
リング
- (4)週休2日実現への取組みについて
- (5)「PCグラウト&プレグラウトP
C鋼材 施工マニュアル2024
改訂版」の発刊について



▲PC業務報告会の模様

- (6)「プレストレストコンクリート構
造物の補修の手引き(外ケーブル
工法・外ケーブル補強工法)」およ
び「PC技術を用いた構造物の補
修・補強事例集」の発刊について
- (7)新工法・新技術橋の点検管理の取
組みについて

その後、水口和之(株)ネクスコ東日
本エンジニアリング顧問に「高速道
路を支えてきた橋梁技術の過去を振
り返りつつ、今後を考える」と題し
た特別講演をいただきました。

PC建協書籍の紹介

6月発行

「PCタンク・プレストレストコンク
リート円形構造物標準積算要領 令
和6年度改訂版」

〔改訂方針〕

- 令和6年4月からの時間外労働上
限規制(4週8休)に伴う供用日数
の改定
- 国土交通省土木工事標準積算基準
書との類似項目について転用可能
な工種の選定など
- 国土交通省歩掛に準ずることによ
る積算業務の簡素化

各地でPC技術講習会を開催

PC技術に関する講習会が各地で開催されました。

(中国支部)

令和6年7月9日に広島市中区の広島県自治総合研修センターでの「令和6年度土木技術職員研修 中級Ⅱ講座（設計技術）」の中で、県職員23人を対象にPC橋の設計の留意点と架設工法をテーマに維持補修などを講義しました。

その他、令和6年4月以降に実施されたPC技術講習会は次のとおりです。

開催日	支部名	講習会	主催・共催	人数
4月19日	東北	令和6年度第1回橋梁アセットマネジメント担当者会議	青森県県土整備部道路課	14人
5月29日	関東	橋梁メンテナンス技術研修会(令和6年度第1回)	埼玉橋梁メンテナンス研究会	55人
7月2日・30日	中国	岡山県建設技術センター講習会	(公財)岡山県建設技術センター	71人
7月5日	東北	令和6年度土木部専門研修会	福島県	25人
7月23日	関西	令和6年度建設技術職員研修	(公財)滋賀県建設技術センター	86人
7月25日	中国	令和6年度第13回土木技術講習会	(公財)島根県建設技術センター	90人

PC技術専門家を派遣

PC建協では多くの学生にPC構造に興味を持ってもらうことを目的にPC技術専門家派遣事業を展開しています。

(関東支部)

令和6年7月27日に日本大学生産工学部建築工学科の3年生127人を対象に「プレストレストコンクリートの概要」と題した授業を行いました。当日はPC橋の概要と建設方法とPC業界の様子について説明しました。

(九州支部)

令和6年7月17日と24日の両日、九州大学大学院工学研究院社会基盤部門の1年生60人を対象に「プレストレストコンクリートについて」と題した授業を行いました。PCの仕組みやPC橋の実績、施工方法を説明しました。また校内にあるPC橋の紹介などを行いました。

その他、令和6年4月以降に実施されたPC技術専門家の派遣講義は左のとおりです。

開催日	支部名	学校名
4月18日	関東	芝浦工業大学工学部
5月17日	中国	広島工業大学工学部
5月23日	中国	岡山大学工学部
5月30日	北陸	富山大学都市デザイン学部
5月31日	関東	長野工業高等専門学校
6月5日	北陸	福井工業大学工学部
6月13日	九州	長崎大学工学部
6月20日	関東	東京都市大学建築都市デザイン学部
6月21日	関西	明石工業高等専門学校
6月28日	関東	東海大学建築都市学部
7月2日	北陸	金沢大学理工学域
7月3日	関東	国士舘大学理工学部
7月8日・18日	九州	佐賀大学理工学部
7月9日	北陸	長岡技術科学大学環境社会基盤工学課程
7月10日	関東	東洋大学理工学部
7月10日	九州	大分工業高等専門学校
7月12日	関東	足利大学工学部
7月12日	関東	東京電機大学理工学部
7月16日	九州	琉球大学工学部
7月17日	関東	東洋大学理工学部
7月18日	関東	信州大学工学部
7月18日	九州	佐賀大学理工学部
7月22日	九州	宮崎大学工学教育研究部

現場見学会を開催

PC建協支部が主催する現場見学会が開催されました。

(北海道支部)

令和6年7月31日に新冠町の日高自動車道の工事現場で地元小中学生と保護者の計27人を対象とした現場見学会を開催しました。

現場見学会は施工中の日高自動車道新冠町大節婦川橋上部中央工事(日本高圧コンクリート㈱)、及び竣工した節婦川橋で行いました。今回は苫小牧工業高等学校との共催でした。



▲ 現場見学会の様子

(北陸支部)

令和6年6月8日と22日の2日間、金沢外環状道路海側幹線Ⅳ期地方道

改築工事（浅野川うみかん大橋海側P7・P9上部工）（ピーエス・コンストラクション株）で地元小学生70人を対象とした現場見学会を開催しました。

当日はプレキャスト板コンクリート板くらべ、液状化現象体験、建設機械体験などを行いました。

（中部支部）

令和6年7月10日に愛知県設楽町の設楽ダム国道257号4号橋PC上部工事（株安部日鋼工業）の工事現場で名古屋大学工学部環境土木・建築学科の2年生約40人を対象に現場見学会を実施しました。

本橋は橋長357mのPC3径間連続ラーメン箱桁橋で架設工法は片持架設工法です。

（東北支部）

EE東北'24に出展

建設事業の新材料や新工法などの展示会「EE東北'24」が令和6年6月5日と6日の2日間、仙台市のみやぎ産業交流センター「夢メッセみやぎ」で開催されました。今年の来場者数は過去最多の1万7100人でした。

今回もPC建協東北支部は「時代のニーズに応えるプレキャスト技術」と題して出展し、橋梁模型やパネル等を展示しました。

（北陸支部）

令和6年能登半島地震への災害対応功労者感謝状贈呈

令和6年6月21日、PC建協北陸支部の令和6年能登半島地震に際して被災した、のと里山海道能登大橋の早期復旧に当たったことに対し、遠藤仁彦北陸地方整備局長から「災害対応功労者感謝状」が贈呈されました。今回、感謝状を贈呈されたのはPC建協のほか23団体と3社でした。

（北陸支部）

鉄道・運輸機構と災害協定締結

令和6年7月4日、(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構とPC建協北陸支部は、IRいしかわ鉄道線やハピラインふくい線をはじめとした北陸地域の地域鉄道の迅速な災害復旧などに連携して推進するため、災害協定を締結しました。本協定の締結により北陸地域の鉄道における防災体制が強化されるとともに、より一層の災害対応が可能となりました。

第33回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム開催のお知らせ

（公社）プレストレストコンクリート

工学会は「第33回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」を令和6年10月17日と18日の2日間、新潟市中央区の朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）で開催します。本シンポジウムは学術・技術に関する価値ある情報を講演者と参加者が共有し、PC技術をさらに発展させることを目的としています。

詳細は（公社）プレストレストコンクリート工学会ホームページをご覧ください。
<https://www.jpcci.or.jp/>

全国から開通情報

（四国支部）

国道11号新居浜バイパス3・1工区、開通

令和6年4月29日に愛媛県の国道11号新居浜バイパス3・1工区（新居浜市西喜光地町～本郷1丁目間、延長1・1km）が暫定2車線開通しました。これにより地域の渋滞が緩和し、松山自動車道へのアクセスが向上しました。新居浜市中村松木で催された開通式では関係者などによるくす玉割りや通り初めなどが行われました。

編集委員会

荒瀬 美和（編集委員長）、石井 一生（副委員長）、
吉山 誠之（副委員長）、湯山 芳夫、照井 満、鈴木 裕二、
松井 敏二、堀 重伸、大塚 俊介、牧 哲史、太野 垣 泰博

編集部会

荒畑 智志（部会長）、小谷 仁（副部会長）、木村 良輔（副部会長）、
瀬戸 裕一郎（副部会長）、阪田 憲一、河野 雅弘、武藤 浩美、喜多 俊介、浅野 真人、
勝野 源基、福井 大樹、中田 清博、苅部 秀次、小林 晃一、渡邊 絵美、小楠 元久

編集後記

今回のルポは、3月に開業した北陸新幹線 金沢～敦賀間の新設橋梁をはじめ、沿線の特徴的な橋梁を訪れながら北陸の文化に触れてきました。これまでに北陸地方にルポで訪れたのは2回あり、2013年5月のPCプレス創刊号（PC橋発祥の地を訪ねる）では石川県を中心とした特集で、2015年5月号（北陸新幹線に乗って、富山の旅）では富山県を中心に紹介しました。それ以来の約10年ぶりの北陸地方への訪問となり、今回は福井県を中心に紹介しました。ルポに出かける前に詳細なスケジュールを立てていたのですが、旧北陸本線のルートをとどろながら、沿線の文化や歴史の背景を理解していくにつれて新たな好奇心が生まれ、予定と異なる行程に急遽変更しました。このように思いがけず新たな興味やワクワクするような発見があるのも旅の面白さの一つなのかもしれないと思いました。

コラムでは、よくわかるPC基礎講座 プレキャスト工法の活用、として箱桁のロングライン方式とショートライン方式の紹介がありました。また「PCのニューフェイスたち」では令和5年度に誕生した17作品を紹介しております。

最後になりますが、今回のルポで掲載された資料の提供をいただきました(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構様にこの場を借りて感謝申し上げます。(小林)